

檀信徒各位

秋季彼岸法要のご案内

聖 名 豪雨や台風、地震に見舞われた夏も終わりを告げ、
秋のお彼岸を迎えます。

皆々様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

秋季彼岸法要を下記のように勤めます。

ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいます
ようご案内申し上げます。 合 掌

平成 25 年 9 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

記

※期 日 9 月 23 日（祝）秋分の日

※時 間 午後 1 時より音楽法要・ご回向^{えこう}
午後 2 時より法話と歌唱指導（音楽法要の歌）
今回は（懺悔の心）お経の解説

※ご回向料

普通回向 1 霊につき 1,000 円 以上 ご志納下さい。

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※お袈裟をお持ちの方は着用の上、法要にご参加下さい。

釈尊の生涯

アーナンダ

釈尊の従弟のアーナンダ（阿難）は容姿端正で、しかも博覧強記の人で、記憶において彼におよぶ者がなかった。

彼はアウドガリヤーヤナやシャーリプトラに勧められて釈尊の常侍となつて、二十五年の長い間片時も師のそばを離れず奉仕し、説法を正確に記憶にとどめた。釈尊の入滅後、彼は記憶に従つて師の説法を暗誦し、經典編集に偉大な功績を残した。また彼は釈尊の養母やラーフラの母をはじめ多くの女性が出家を願い出した時、容易に許そうとしない釈尊の中に立って、許しを得るように懇願した。そうした点でアーナンダは比丘尼教団成立のかけの功労者でもある。

シリーズ お葬式

臨終

（葬儀のこころ構えと流れ）

臨終に立ち会う。人間の生命がこの世からあの世へと旅立つ瞬間を、自宅で看取ることが少なくなり、病院で亡くなることが多くなりました。

病院で亡くなるとすぐに葬儀屋さんを紹介され、その葬儀屋さんの手配にすべてを任せてしまふ、というのが都市部では当たり前になってきています。ましてや核家族化が進むなかで、とても良きアドバイザーであるおじいさんや、おばあさんと一緒に暮らしていない、また一緒に暮らしていても、そのおじいさんやおばあさんが、亡くなってしまうことがおおいわけです。ですから、こうした時こそ、遺族があわてず、菩提寺の住職とよく相談して、亡くなった方をお送りしたいものです。

「畳の上で死にたい」と言いますが、家族にとつても、臨終を迎えつつある家族や親戚の面倒をみ、その臨終を看取することは、その方にできる本当に最後の世話になります。いったい、どのようなお世話が私たちにできるのでしょうか。

安らかに生を終わらせる、このことを忘れずにすべきことを考えてみましょう。

枕経とはこうした臨終を迎えつつある方の枕元であげるお経のことです。室内を清らかにし、また臨終の人の心が乱れることのないよう物音などにも気を配り、来迎仏やお名号の掛け軸や屏風を枕元に飾って行うお経です。ですが、なかなか臨終の瞬間にお坊さんに立ち会ってお経を唱えてもらうことが難しいこともあるでしょう。そんなときは、家族や親戚で南無阿弥陀仏とお念仏を称えてあげましょう。

看取る人全員で低声で念仏を称え、来世に向かおうとする人に

一度でもよいのですから、南無阿弥陀仏と称える力を出させてあげるようにできれば、それ以上の功德はないでしょう。

そして、本当に臨終の瞬間が来そうな時には清らかな水を用意して、綿または筆で当人の唇を潤してあげます。いわゆる末期（まつご）の水です。また病のせいなどで死苦にせまられている時などは当人の手をしっかりと握り締め、阿弥陀さまのご加護を祈りましょう。辛い病苦に迫られず、静かに臨終を迎えることができるならば、死期を悟った当人の最後の言葉を聞き漏らさないようにしたいものです。

さらに、臨終の瞬間をとらえた善導大師の『発願文（ほつがんもん）』を静かに朗読すること、当人のところを落ち着かせるとともに、看取る側のところも落ち着くことでしよう。

浄土宗ホームページより抜粋

法然上人絵伝

第四巻第二段

法然上人、嵯峨清涼寺に参籠する

保元元年（一一五六）、二十四歳になった法然上人は、黒谷の叡空上人のもとを辞し、京都嵯峨の清涼寺で七日の参籠を行った。清涼寺は釈迦堂の名で知られている。この寺には、日本三如来の一つと呼ばれる三國伝来の釈迦像がある。東大寺の齋然上人が入宋して請来したものである。

齋然上人は秦氏の出身であるが、弟子の義蔵と現当二世の結縁状を認め、京都の西北にある愛宕山に一寺を建立し、南都仏教の隆盛につくしたいと誓願した。

宋（中国）の五台山清涼寺に参詣したあと開封に戻り、宮中でインド伝来の釈迦像を礼拝して感激し、その模刻を完成した。

その後、日本に持ち帰った。この釈迦像を本尊として五台山清涼寺を造立した。

この清涼寺の釈迦如来像は盛んに模刻されて全国にひろ

まっていた。

求法に燃える法然上人も、この清涼寺を訪れ、七日七夜の参籠をつとめた。そればかりでなく、当時の清涼寺には、二十五三昧の助念仏が行われていた。この二十五三昧は『往生要集』の背景になったものであり、法然上人が念仏に救いを求めた先達となったものである。



第四巻第二段①



第四巻第二段②

絵巻の右端には松皮ぶきの山門と思われる、屋根が見える。

正面中央に朱塗りの柱や高欄をめぐらした建物が釈迦堂であろう。堂内縁に見える上畳の上で被衣姿の女性が参詣している。高欄のところには、狩衣に烏帽子姿の公卿と侍従や、黒衣の青年僧がいる。階段には参詣をすませて帰る被衣姿の女性がえがかれている。

庭には細長い腰掛けが置いてあり、そこにもすげがさをつけた女性や被衣姿の女性がいる。こちらは庶民である。また編み笠や折烏帽子をつけた武士の姿がある。

これら熱心に拝んでいるところを見ると、堂内に入れる人と入れない人の区別でもあるのであろう。

いろいろな立場の人々があふれるけれども、それぞれがこぞって釈迦堂に参詣したのであろう。

精進料理

なすと 2 色ピーマンの ピリっと炒め

139kcal 塩分 1g 調理時間 10 分



材料 (4 人分)

- ・なす 中 1 本
- ・ピーマン 2 個
- ・赤ピーマン 2 個
- ・ごま油 大さじ 1~2
- 【たれ】
- ・砂糖 大さじ 1
- ・みりん 大さじ 2
- ・しょうゆ 大さじ 1.5
- ・七味唐辛子 適量

作り方

- 1, なすは 1.5 センチ厚の半月切りに、ピーマンと赤ピーマンは縦 1 センチ幅に切る。
- 2, フライパンにごま油を熱し、1. の具材を入れて炒め、火が通ったら、たれを加える。
- 3, 水分がほとんどなくなるまで混ぜながら煮詰め、七味唐辛子をまぶす。



院号授与



慶徳院 平田 富美江殿
宝珠院 坂本 カホル殿

無量寺で執り行われる法要で、数年に渡り法話をお受けになり、お念仏に精進される方に院号をお贈りしています。
おふたりは平成 16 年に開筵された五重相伝を受けて、浄土宗のお念仏のみ教えを実践されています。